

正月未止宗取葯也、次第ニ氣力衰食減シテ、一鷗葯ヲ與ヘテ、十餘日ニシテ果シテ卒ス、
 〔橋黃年譜〕下町與力安藤源五左衛門、年五十許、往年大下血ヲ患、脫血後肛門穢出、納ル能ハズ、痛楚
 甚シ、福山一瘍醫之ヲ療ジテ痛去ルト雖、脫肛收ルヲ得ズ、廁ニ上レバ穢出益甚シク、下血淋漓便
 後腸垢及ビ稀汁ヲ下スコト一合餘、更衣後一時許苦楚云フベカラズ、漸蓐臥ヲ得、面色青慘、唇舌
 灰白、胸中動悸甚シク、腹虛滿少シク勢動スレバ氣息短乏、口中乾燥、四肢微腫、脈虛數、消穀善飢ス、
 伊澤磐安之ヲ療スル數歲、依然トシテ復スルコト能ハズ、四物加減、及補益氣湯ヲ服スト云フ、余
 曰、下血過多、中焦氣虛ス、故ニ多年治スルヲ得ズ、古人云、血ヲ補フハ氣ヲ補フニ如ズト、宜ク先胃
 氣ヲ輔クベシ、六君子湯加厚朴香附子炮姜ヲ與ヘ、鐵砂丸ヲ兼用ス、數日ニシテ下血止ミ動悸減
 ズ、

〔安齋隨筆 前編十三〕一血症禁柿實 生柿、熟柿、白柿ともに、産婦手負等に固く禁するなり、血を
 狂する物なり、此事を不知人、鎧の小手草摺、脇當、脛楯等の裏に、柿澀にて染たる布を用ふるは、
 軍事を知らざる故なり、金創ある人、柿澀布を身に付くれば、血を吸出して血止る事なし、され
 ば、武器には固く柿澀を忌むべし、又柿澀を以て制したる器は、虫生じて惡し、

〔倭名類聚抄三〕鼻口、衄 說文云、衄、女鞠反、和、鼻出血也、

〔箋注倭名類聚抄二〕鼻口、下總本菊作鞠、那波本同、與玉篇合、按菊鞠同音、醫心方同訓、波奈知見平治
 物語略 中 所引血部文、

〔段注說文解字五上〕衄、鼻出血也、素問曰、鼻衄、又脾移熱於肝、則爲驚衄、按諸書用、从血丑聲、女六切、

〔伊呂波字類抄波瘡〕衄、ハナチ

〔增補下學集上二〕衄

〔醫心方五〕治鼻衄方第卅六